第6回宇宙核物理連絡協議会総会

日時：2011年11月13日（日）14:15-16:15　場所：理化学研究所RIBF棟 2階大会議室

1. 報告 ： 研究会報告&告知

(1) 第3回研究戦略ワークショップ （2010年11月4日（木）～5日（金））
（済 「J-PARC中性子ビームラインでの宇宙核物理研究および関連する研究」
日本原子力研究開発機構システム計算科学センター 7 階大会議室

(2) OMEG11サテライトワークショップ （2011年11月10日（木）～12日（土））
（済 ［RIBF-ULIC-Symposium-009］Physics of Rare-RI Ring
理化学研究所RIBF棟2階大会議室

(3) OMEG11シンポジウム （2011年11月14日（月）～17日（木））
理化学研究所RIBF棟2階大会議室

(4) OMEG11サテライトワークショップ （2011年11月18日（金））
The 5th meeting of OMEG Institute
国立天文台（三鷹）大講義室

※ 会員数 （2011年11月12日現在）

天文理論	14
天文観測	4
原子核理論	29
原子核実験	40
原子力･核データ	5
宇宙線	5
地球惑星科学	5
その他	4
合計	106

２．議題

(1) 役員（代表、幹事）、運営委員改選方法について

立候補・推薦の募集に応募された方々の中から運営委員会で議論し、委員会からの推薦者を総会で提案、承認を得ることが承認された。

(2) 役員、運営委員改選

(1)に基づき、次期代表候補として本林透氏（理研）が運営委員会より推薦され、承認された。

また、新役員・委員については1ヶ月以内に候補者を選び、あらためて提案すること、およびそれまでの移行期間中は、旧役員・委員が業務を補佐することが提案され、承認された。

(3) 会員名簿の取り扱いについて

あらかじめ各会員の承諾を得た上で、氏名および所属のリストを会員に配布することが承認された。

(4) 次回研究戦略ワークショップについて

下記の内容で次期ワークショップ提案が行われ、承認された。

タイトル: “Radiative Capture Processes in Explosiove Nucleosynthesis in Extreme Conditions”

Conveners: 早川岳人、嶋 達志、宇都宮弘章、久保野 茂、本林 透、青木和光、梶野敏貴

趣旨:

超新星爆発・ガンマ線バースト・AGBなどの爆発的元素合成では、中性子過剰領域（Ye < 0.5）と陽子過剰領域（Ye > 0.5）とがさまざまな力学的ダイナミックスや流体不安定性のために混合して爆発過程が進行することが、理論シミュレーションから明らかにされつつある。

これはr-process、rp-process、γ-process、α-process 等が異なる Y_e 領域で進むという従来の考え方を変更せざるを得ない新たな元素合成過程が存在することを示唆している。(p,γ)、(n,γ)、(α,γ)反応率は、閾値エネルギー近傍の核構造だけでなく巨大共鳴のモードや反応のダイナミックスに大きく依存する。陽子、中性子過剰核に対する(n,γ)、(p,γ)反応、νp-process 等の新しい可能性が元素合成に大きく関わっている可能性がある。核構造・反応、元素合成、天文観測の合同ワークショップを提案する。

時期: 2012年3月6（火）～10日（土）の間の2.5日間